

地震に備えるのは住民の一人ひとり

関東大地震は 1923 年（大正 12 年）9 月 1 日 11 時 58 分に、東京、神奈川を中心に発生しました。関東大地震は 60 年周期で起きると言われ、1990 年頃から、今にも起きると言われてきました。その後、阪神大震災、東日本大震災、そして熊本大震災が起きましたが、ここ横浜では震度 5 弱程度の地震があっただけでした。でも、いつ起きても不思議ではない状態にあります。もし起きた場合には、津波や液状化による被害はまだ記憶に新しいもので、今ならば、その時はどのような修羅場になるか、想像もできます。

地震が起きたときにどうするかということは、「備えあれば憂いなし」とはいえ、地震の規模、それが起きた季節や時間、こうむる被害の程度によって変わってきます。あらゆる状態を想定して、それに備えることができればよいのですが、そうもいかないのが現実です。それに第一、あらゆる状態を想定するといっても、実際には思いもかけないような事態が起こるかもしれないのです。事実はしばしば想定を超えます。

それでも、どんな事態が起こるにせよ、日頃からいろいろな用意をしておけば、それなりに被害を減らし、より適切な対応をすることができます。

そして実際に地震が起こったら？ それに立ち向かうのは住民の一人ひとりです。特に地震が起こってから数日の間は、外部からの支援は期待できないと公的機関はうれしくはないですが、明言しています。そのときそこにいる人たちが、現実をまっすぐに見つめ、お互いに助け合い、自発的に役割を分担しあって、知恵を絞り、力を尽くして、自力でやれることをやり抜き、臨機応変に対応して、被害を最小限に食い止めて、生き延びていく努力をすることが要求されています。

このマニュアルは、東の街の住民の一人ひとりが、日頃から地震にどう備えたらよいか、そして、地震が起こったときどう対応したらよいかについて、「防災の会」のメンバーで考え、議論して作りあげたものです。

地震が起こったときには、このマニュアルを一つの指針として、実際に起こる事態によりよく対応していくことが期待できます。

大地震などいやだと言っても、自然は人間の気持ちなど考えていません。起きるときは起きるのです。このマニュアルが、東の街に住む一人ひとりの、地震に対する備えに、地震が起こったときの行動の指針になることを、管理組合、自治会、そして防災の会一同は心から願っています。